鹿児島大学と日本航空・日本エアコミューター連携協定
締結式 挨拶（2020 年 10 月 5 日）

京セラ名誉会長
稲盛　和夫

鹿児島大学の卒業生として、また日本航空の経営に携わった者として、本日の連携協定締結式にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

このたび、地域密着型パイロット人財創出プログラムの創設につきまして、鹿児島大学と日本航空・日本エアコミューターの連携協定が締結されますこと、心より嬉しく存じます。

そう申し上げますのも、このたびの取り組みが、母校鹿児島大学に学ぶ若い学生の皆さんにとり、大いなる道標（みちしるべ）になるからです。

私自身、八十有余年の人生を振り返り、後進の皆さんに最も申し上げたいことは、人生において「思いは実現する」ということです。強く、美しい「思い」を持ち続け、努力と工夫を重ねていくならば、「思い」は必ず実現してまいります。

このたびの取り組みは、パイロットになりたいという強い「思い」と、故郷に貢献したいという美しい「思い」を抱く、若者たちの志のまさに受け皿になるものと考えます。

鹿児島大学が、そのような若い人たちの「思い」を真正面から受け止める大学であり続けていただきたいと思います。いたずらに規模や名声を追うのではなく、明日の日本を担う若者の夢と希望の創出を通じ、地域、社会にさらに貢献し続けること、そのことこそが未来の人材を育む教育機関として、鹿児島大学がさらに輝きを増す王道であろうと思います。

また、このたびの取り組みは、私が経営に携わってまいりました、日本航空・日本エアコミューターのさらなる発展にもつながるものと確信しています。

企業は人なりと申します。能力はもちろん、素晴らしい人格を兼ね備えた人財を得てこそ、企業の永続的発展を果たすことができます。このたびのプログラムは、パイロット養成のための育成システムであるとともに、日本を代表する航空会社の将来を担うにふさわしい、美しい心根を持った人材を育んでいく取り組みでもあります。

このプログラムを通じて養成される、若いパイロットの皆さんが、人生の門出において、鹿児島の離島で暮らす人々を支えていくという、強い気概と美しい利他の心をもって、仕事に就かれることは、人材育成の観点からもたいへん意義あることです。

現在、航空会社は、コロナ禍の中、経営に呻吟される日々が続いていることと思います。会社再生以来、健全な経営に努めながらも、思いもかけない事由により、経営の舵取りが翻弄され、従業員も経営者も理不尽な思いに駆られていることと思います。

そんな混迷のときであるからこそ、未来を担う有為の人材育成に努めていただきたいと思います。長い目でみれば、そのような地道な取り組みこそが、組織を成長発展へと導く、最善の道となってまいります。

このたびの連携協定締結が、パイロットを志望する若者の夢の実現を果たすとともに、鹿児島大学、日本航空・日本エアコミューターの発展を促し、さらには鹿児島の離島の皆さんの暮らしを支えるものとなりますことを衷心より祈念申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。